

分担研究報告書

ウェブアンケートを用いた女性医師意識調査を通じた

公衆衛生行政医師の人材充実と育成のための研究

研究分担者	渡邊 亮	(神奈川県立保健福祉大学)
研究分担者	佐藤 大介	(国立保健医療科学院)
研究代表者	吉田 穂波	(神奈川県立保健福祉大学)
研究分担者	吉村 健佑	(千葉大学)

研究要旨

公衆衛生医師の充実を図るため、女性医師を対象とした公衆衛生医師キャリアの価値創造や広報戦略の検討を目的として、医療機関等に勤務する女性臨床医を対象としたウェブアンケートを実施した。仕事に対する価値観や業務の環境は、勤務先種別によって異なっており、病院勤務医では診療所医師と比べて、待遇面の充実やワークライフバランスがあまりとりにやすすくない傾向が示された。また、本研究班が先に実施した公衆衛生医師を対象とした調査と併せて検討したところ、女性公衆衛生医師では比較的ワークライフバランスがとれる傾向が示されており、業務に対するやり甲斐も高いことや、仕事内容と対比して給与もそれなりに見合っていることが示唆された。公衆衛生医師の充実を目指して、ワークライフバランスが比較的とりにやすくやり甲斐のある業務を行うことができるキャリアとしての価値明確化を図った上で、若手女性医師を積極的な募集対象の一つとして広報を積極的に行うことが期待される。

A. 研究目的

保健所や地方自治体等に勤務する公衆衛生行政医師(以下「公衆衛生医師」とする)の不足が課題となる中、その確保や育成における障壁や課題の解決に向けた検討及び実践が行われている。例えば厚生労働省の「公衆衛生医師の育成・確保のための環境整備に関する検討会」がまとめた報告書によれば、採用・確保に向け

た方策として、「採用計画の策定による定期的な採用」「募集方法の工夫」「地方公共団体間等での人事交流」「奨学金制度」「公衆衛生医師確保推進登録事業の活用」の5点を提案している。

また、全国の保健所長で構成される全国保健所長会は、地域保健総合推進事業の一環として平成23年度より「公衆衛生医師の確保と人材育成に関する調査および実践事業」を行って

おり、例えば平成 28 年度には「若手医師・医学生向けサマーセミナー」の開催や「公衆衛生医師募集の広報用媒体等についての検討」、「日本公衆衛生学会総会自由総会の開催」「大学医学部と連携した取り組み」などの事業を通じて、公衆衛生医師の充実に向けた実践的な取り組みを行っている。

しかし、依然として公衆衛生医師の不足は解消されておらず、本研究班では平成 29 年度に実施した調査において、より戦略的に人材の充実と育成を行うために、対象の細分化を明確に行い、細分化された各階層に適した広報を行うなど、マーケティング手法を活用した公衆衛生医師業務の価値明確化を検討する必要があることを指摘した(渡邊ほか, 2018)。

平成 29 年度の調査で佐藤らが実施した調査によると、公衆衛生医師領域の認知率はベテラン医師で比較的高い一方、公衆衛生医師のキャリアに関心を持つ割合は女性や若手医師で比較的高い傾向がみられた(佐藤ほか, 2018)。また、本研究班が今年度(平成 30 年度)に公衆衛生医師を対象として実施したウェブアンケート調査の結果として、渡邊らは、公衆衛生医師のキャリアが女性医師にとって「働きやすさ、とりわけライフワークバランスが比較的とりやすい環境であることが示唆されており、実際に子供を持つ女性医師の業務継続意思が高いことが明らかになった」としている(渡邊, 2019)。

そこで本研究では、公衆衛生医師の充実と育成に向けた対象として、比較的若い女性医師を対象とした公衆衛生医師のキャリアに関する価値明確化や・広報戦略を検討することを目的として、一般の医療機関等に勤務する 45 歳未満の女性臨床医を対象としたウェブアンケートを実施し、仕事に対する価値観や、現在の業務環境、および公衆衛生医師としての業務に対

する考え方などについて実態を明らかにすることとした。本研究を通じて、臨床医の持つ仕事の価値観や業務環境と、公衆衛生医師の持つ仕事の価値観とを比較した上で、公衆衛生医師として具体的にリクルート対象となりうる対象の細分化や、その広報戦略について検討する。

B. 研究方法

本研究は、調査会社が提供する医師調査パネルを用いて、臨床医として勤務する 45 歳未満の女性医師を対象としたウェブ質問票を用いた横断研究である。

調査対象者のリクルートは、調査会社の提供するウェブサイトを用いて、調査会社の保有する医師パネルのうち、臨床医として勤務する 45 歳未満の女性医師 110 名をリクルートした。

調査依頼は、平成 31 年 2 月にメールによって対象者に送付した。依頼状には、調査会社が作成した本調査のアンケート回答フォームのアドレスを記載し、ウェブ上のフォームから回答をするよう依頼を行った。

調査項目としては、人口統計学的項目として年齢(連続変数)、居住地(都道府県)、配偶者の有無(配偶者あり&共働き・配偶者あり&共働きでない・配偶者なし)、子供の有無(あり・なし、ありの場合は人数)を尋ねた。また、勤務に関する項目として、卒後年数(連続変数)、主たる勤務先種別(診療所・病院・大学・介護老人保健施設・行政機関・上記以外の施設・休職休業・離職・その他)、勤務先の住所地(都道府県)、居住地から勤務先までの通勤時間(時間・分)、現勤務先の勤務期間(年・ヶ月)、業務における臨床の割合(パーセント)、臨床医としての通算期間(年・ヶ月)について尋ねた。また主たる診療科(択一式)、専門医資格の取得状況(複数選択可)について尋ねた。続いて、医師経験

に関する質問として、現在の勤務先に勤務する前の主な職(臨床医・臨床研修医・大学院生・大学等の教員・医学部学生・その他・休職休業・離職)について尋ねた。さらに現在の仕事を志望した動機として、大阪商業大学 JGSS 研究センターが実施した日本版 General Social Surveys JGSS-2002 における職業観に関する項目を参考に、以下の 10 項目について「よくあてはまる」「あてはまる」「どちらともいえない」「あてはまらない」「まったくあてはまらない」の 5 件法で尋ねた。

- ・ 雇用が安定しているから
- ・ 高収入だから
- ・ 昇進の機会が多い
- ・ 興味のある仕事だから
- ・ 干渉されず、独立した仕事だから
- ・ 他の人のためになる仕事だから
- ・ 社会にとって有益な仕事だから
- ・ 働く時間などを自分で決定できるから
- ・ 仕事と家庭生活を両立できるから
- ・ 教育・訓練の機会が提供されるから

また現在の仕事について、志望動機に関する質問に準じた 10 項目及び、公衆衛生医師のキャリアについて以下の 4 項目を追加した 14 項目について、「よくあてはまる」「あてはまる」「どちらともいえない」「あてはまらない」「まったくあてはまらない」の 5 件法で尋ねた。

- ・ 学位取得、留学、研究の機会がある
- ・ 女性医師が勤務しやすい環境である
- ・ 給与は仕事に見合っている
- ・ これからも現在のキャリアを重ねていきたい

基本統計量等は、連続変数については平均値及び標準偏差を算出し、名義変数については度数及び割合を算出した。また、「現在の仕事を志望した動機」及び現在の仕事についてのあて

はまりを 5 段階のリッカート尺度で尋ねた設問については、度数を算出した。さらに、5 段階のリッカート尺度について「よくあてはまる」を 5、「あてはまる」を 4、「どちらともいえない」を 3、「あてはまらない」を 2、「まったくあてはまらない」を 1 として間隔尺度と見なし、各設問の度数・平均・標準誤差・95%信頼区間を主たる勤務先種別に算出した。「これからも、現在のキャリアを重ねていきたい」の回答を目的変数、「性」「年齢」「配偶者の有無」「勤務先種別」「仕事について、以下の項目はどの程度当てはまりますか」「医師資格取得年数」などを説明変数として、順序ロジスティック回帰分析解析を行った。

統計解析には STATA IC 13(StataCorp, College Station, TX, USA)を用いた。

(倫理面への配慮)

本研究は匿名のアンケート調査であり、「個人情報保護法」や「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等で規定される「個人情報」や「要配慮個人情報」は取得しないため、インフォームド・コンセントを受ける手続きは実施しなかった。しかし「性別」や「年齢」など、個人情報には該当しないものの個人に関する情報を一定程度取得し、これら個人に関する情報を連結することで個人が特定されうる可能性が否定できないため、ウェブ調査フォームのページに「研究対象者への説明書」を掲載して、研究対象者にその旨の通知を行った。また、本調査への回答を以て調査参加への同意があったものと看做した。なお、本研究は神奈川県立保健福祉大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(保大第 71-63)。

C. 研究結果

項目	N	平均	標準偏差	中央値
年齢	115	35.41	5.1	36
卒後年数	115	10.52	5.22	10
臨床医通算期間(年)	115	9.68	4.85	10
現勤務先の合計勤続期間(年)	115	3.47	3.13	2.17

表 2 基本統計量

平成 31 年 2 月 15 日から 6 日間にかけて、調査を行った結果、115 件の回答を得た回答者の年齢等に関する基本統計量を表 1 に示す。本調査の対象が 45 歳未満の女性医師であるため、回答者の平均年齢は 35.4 歳と比較的低かった。卒後年数は平均 10.5 年で、そのうち臨床医としての通算期間は 9.7 年だった。また、現在の勤務先の勤続年数は 3.5 年だった。

回答結果の詳細については別表に示す。卒後年数を尋ねたところ、6～10 年目が最も多く、全体の約 35% を占めた。なお本研究では、45 歳未満までを対象とした調査のため、最も長かったのは 20 年だった。

主たる勤務先としては、「病院」が全体の 5 割強を占め、続いて「大学・大学病院」が 27.0%、診療所が 12.2% だった。また勤務先の住所は関東地方が最も多く 42.6%、続いて近畿 22.6%、続いて中部 14.8% だった。自宅から勤務先までの通勤時間は、6 割強が 60 分以内だったが、3 割強は 60 分以上かかっていた。なお、居住地については主たる勤務先住所とほぼ同様の結果であった。

対象者の家族の状況について、まず配偶者の有無を尋ねたところ、全体の約 7 割で配偶者がおり、その大半が共働きだった。配偶者が共働きの者のうち約 6 割で、配偶者も医師だった。また子供の有無について尋ねたところ、全体の 5 割強で子供がおり、そのうち半数程度が 1 人、3 割強が 2 人いると回答した。

臨床医としての期間は 6～10 年が最も多く、

続いて 11～15 年が多かった。主たる診療科としては「小児科」が最も多く、「内科」「麻酔科」が続き、さらに「眼科」「皮膚科」「産婦人科」と続いた。外科系診療科は少なかった。また保有する専門医資格を尋ねたところ、専門医資格を保有していない者が全体の約 2 割と最も多かったが、続いて「総合内科専門医」を保有する者が約 10%、さらに「小児科専門医」が続いた。また、全体の 6% に当たる 9 名が「日医認定産業医」資格を有していた。現在の仕事の前の職としては、「臨床医」が約 7 割を占めた。

「現在の仕事の志望動機」としての当てはまりを 5 件法で尋ねたところ、「雇用が安定しているから」「興味のある仕事だから」「他の人のためになる仕事だから」「社会にとって有益な仕事だから」といった項目で特に当てはまりが強い傾向があった。一方で、「昇進の機会が多いから」「働く時間などを自分で決定できるから」という項目では、当てはまりが弱い傾向が見られた。なお、5 件法の回答を間隔尺度と見なして平均値等を算出した上で、勤務先として回答が多かった「診療所」「病院」「大学病院」別に平均値を算出し、その平均値の差について一元配置分散分析を行った(表 2)。その結果、「高収入だから」「働く時間などを自分で決定できるから」「仕事と家庭生活を両立できるから」「教育・訓練の機会が提供されるから」で 3 群間に有意な差が認められた。「高収入だから」は診療所勤務者であてはまりの傾向が高かった反面、大学・大学病院勤務者では低い傾向が強

かった。また「自分で働く時間などを決定できるから」についても、診療所勤務者では平均4.1を超えている一方で、病院では2.6、大学でも2.7と大きな乖離が見られた。「仕事と家庭生活を両立できるから」についても、診療所ではあてはまりが高い傾向が強く、病院では弱かった。一方「教育・訓練の機会が提供されるから」については、大学であてはまりが高く(3.6)、診療所(3.1)と病院(3.0)では低かった。

現在の仕事について、「現在の仕事の志望動機」に関する質問に準じた項目について尋ねたところ、「雇用が安定している」「興味のある仕事だ」「他の人のためになる仕事だ」「社会にとって有益な仕事だ」のあてはまりが高い傾向が見られた。相対的に「昇進の機会が多い」「働く時間などを自分で決定できる」「学位取得、留学、研究の機会がある」はあてはまりが弱い傾向があった。志望動機に関する質問同様、5件法の回答を間隔尺度と見なして平均値等を算出した上で、勤務先として回答が多かった「診療所」「病院」「大学病院」別に平均値を算出し、その平均値の差について一元配置分散分析を行った(表2)。その結果、「雇用が安定している」「高収入である」「干渉されず、独立した仕事だ」「働く時間などを自分で決定できる」「仕事と家庭生活を両立できる」「学位取得、留学、研究の機会がある」「給与は仕事内容に見合っている」について、3群間で有意な差が認められた。「雇用が安定している」については、病院勤務者で最も高く(3.8)、診療所では相対的にあてはまりが低かった(3.1)。「高収入である」については、診療所で高く(3.5)、大学では非常に低かった(2.4)。さらに「干渉されず、独立した仕事だ」では、診療所では高く(3.7)、病院(3.0)・大学(2.9)では低かった。「働く時間などを自分で決定できる」も、同様に診療所で高く(3.8)、病院(2.8)・大学(2.7)で低

い傾向が見られた。「仕事と家庭生活を両立できる」も同様で、診療所で高く(3.9)、病院(3.2)・大学(3.1)では低かった。「学位取得、留学、研究の機会がある」では、診療所(2.4)と病院(2.5)では低く、大学では高かった(3.7)。さらに、「給与は仕事内容に見合っている」について、診療所(3.5)・病院(3.4)では比較的あてはまりが高い一方で、大学・大学病院ではかなり低かった(2.6)。

公衆衛生医師のキャリアについて、「今までに公衆衛生医師のキャリアを考えたことがある」と答えたのは3割弱だった。また、「今までに公衆衛生医師のキャリアを経験したことがある」について「あてはまる」「よくあてはまる」と答えたのは5%弱に過ぎなかった。さらに「将来、公衆衛生医師としてのキャリアを考えている」について「あてはまる」「よくあてはまる」と回答したのは全体の約15%だった。

D. 考察

本研究では、公衆衛生医師の充実と育成に向けて、比較的若い女性医師に対する公衆衛生医師キャリアの価値明確化・広報戦略を検討することを目的とし、45歳未満の女性臨床医を対象としたウェブアンケートを実施し、仕事に対する価値観や、現在の業務環境、および公衆衛生医師としての業務に対する考え方などについて調査を行った。

1. 現在の仕事を志した動機

現在の仕事を志した動機として、特に「興味のある仕事だから」「他の人のためになる仕事だから」「社会にとって有益な仕事だから」「雇用が安定しているから」についてあてはまりが高い傾向が見られた。この結果は、本研究班が本年度に別途実施した公衆衛生医師に対する

アンケート調査の女性の回答傾向とも同様であり、一般的に医師が社会的役割・自己実現を重視して職業選択を行っている可能性が示唆された。

「高収入だから」については、勤務先機関によって差が有意に認められており、診療所に勤務する者では収入を重視する傾向がある反面、大学・大学病院に勤務する者ではあまり重視されていなかった。前述の公衆衛生医師に対するアンケート調査における女性医師の回答では臨床医のうち大学・大学病院に勤務する者よりもさらにあてはまりが弱く、公衆衛生医師との違いが明らかに確認された。

「働く時間などを自分で決定できるから」「仕事と家庭生活を両立できるから」については本調査の結果から、診療所に勤務する医師ではあてはまりが強い一方、病院に勤務する医師では低い傾向が確認された。一般に、診療所では夜勤・当直が少なく、病棟業務も限られる。女性医師が診療所に勤務することを決定する上で、このような環境のもと、ワークライフバランスを重視していることが示唆された。女性公衆衛生医師でも、「仕事と家庭生活を両立できるから」については高いあてはまりが示されている。病院勤務医に比べて、夜勤・当直・オンコールの機会が限られる点は診療所と同様で、業務時間が比較的明確であることが要因であると考えられる。

キャリアの選択における動機として、診療所・病院・大学でも、公衆衛生医師でも、仕事に対する興味ややりがいに関しては同様に重視していることが窺えた。一方、診療所における勤務を選択する際の動機として、雇用の安定性や収入などの待遇、さらに働く時間のコントロールやワークライフバランスなどの環境面も重視されていることが分かった。公衆衛生医師では、収入面に関する動機が非常に低かった

反面、ワークライフバランスについては診療所に勤務する医師と同程度に重視されていた。

2. 現在の仕事の状況

現在の仕事を志した動機と同様に、「興味のある仕事だ」「他の人のためになる仕事だ」「社会にとって有益な仕事だ」については全体的に高いあてはまりが示された。これらの項目について佐藤(2004)は因子分析を元に「仕事内容」としているが、公衆衛生医師に対する調査でも仕事内容に対して、より高い評価がされている傾向が認められており、この点は勤務先等によらず、医師一般の傾向であると考えられる。一方、雇用の安定性や待遇、生活の環境といった、仕事の雇用条件や自律性については大きな差が示された。雇用の安定性は、病院勤務者で高く診療所勤務者では低かったが公衆衛生医師に対する調査では、病院勤務者よりも高いことが示唆されている。収入や働く時間の決定、ワークライフバランスについて、診療所勤務者では総じて高い傾向にあった。病院勤務者では、収入については比較的あてはまりが高かったものの、診療所勤務者に比べて待遇・環境に関する評価は低かった。なお、公衆衛生医師に対する調査における女性の回答では、待遇・環境に関する評価は総じて低いが、「仕事と家庭生活を両立できる」に対するあてはまりは高かった。病院勤務医では比較的安定した経済的待遇があるものの、公衆衛生医師では、経済的待遇はあまり高いとはいえないものの、比較的ワークライフバランスの高い環境が保たれていることが特徴的である。なお、仕事の内容と給与との関係を尋ねたところ、公衆衛生医師では給与が仕事内容に見合っていると答える傾向が強く認められており、診療所に勤務する医師と同程度だった。

3. 本調査結果と公衆衛生医師に対する調査との比較から見た女性公衆衛生医師の仕事に関する特徴

本研究班が先だって実施した公衆衛生医師に対するアンケート調査結果(渡邊ほか,2019)における女性医師の回答と、本調査における女性臨床医に対するアンケート調査とを対比すると、女性公衆衛生医師の仕事に対する動機や現在の状況について、いくつかの特徴が明らかになった。

はじめに、公衆衛生医師と臨床医とで共通することは、仕事に対する興味関心の高さや、仕事が他者や社会にとって有益であるという自負である。医師以外の一般集団に対する調査でも、このような項目を仕事に対して重視していることは同様であるが(大阪商業大学ほか)、実際の業務に対する評価として、勤務先の種別によらず、業務に対する強い誇りと動機を持って医師が仕事をしていることが改めて確認され、公衆衛生医師では、特に社会や他者のためであるという想いを強く持っていた。

公衆衛生医師は病院勤務臨床医と比較して仕事と家庭生活の両立をとりやすい傾向があった。雇用条件については、雇用の安定性は公衆衛生医師で高く評価されている反面、臨床医に比べて公衆衛生医師の収入に対する評価は低かった。ただし、仕事内容と収入とのバランスについては、公衆衛生医師はかなり高く評価しており、業務環境等を踏まえれば妥当な収入が保障されていると感じていることが窺える。勤務環境や雇用条件に関する状況は、公衆衛生医師が公務員であることに拠るものも多く、公務員ゆえの不自由さがある反面、一定の条件が担保されることは、公衆衛生医師の仕事におけるメリットといえる。特に出産・育児などのライフイベントによって、ワークライフバランスのとりやすさが女性医師にとって魅力となる

ことが示唆された。

3. 公衆衛生医師リクルートに向けた対象と価値明確化に対する含意

45歳未満の女性臨床医に対する本調査と、公衆衛生医師に対する調査の女性の回答者の結果を踏まえると、公衆衛生医師の業務は、臨床医の業務と同等かそれ以上に社会的価値を実感できる、やり甲斐やりがいのある仕事であり、雇用条件についても、給与の状況は臨床医ほどではなくとも、ワークライフバランスを維持した上で仕事内容と見合った給与は確保できていた。近年、臨床医の超過勤務が大きな社会課題となる中、臨床医の中でもワークライフバランスを持って仕事をしたいと考える医師は一定程度いることが想定される。特に、現代の日本社会では、未だ家事や育児に対して女性が中心とならざるを得ない場合が多く、共働きの世帯における女性医師の負荷は大きいことが推察される。特に病院臨床医として勤務をしつつ出産・育児を行うことはかなり困難である。女性医師では、医学部卒業後に就業率が漸減し、30代中盤(卒後11年頃)で75%程度まで低下した後に再度上昇することが知られており、このような就業率の傾向は「Mカーブ」と呼ばれている。卒後の就業率低下は、出産や子育てが大きな要因としてあげられており、国としても様々な対策を検討している(厚生労働省,2018)。

出産・育児などのライフイベントに直面する女性医師の持つニーズと、公衆衛生医師の業務環境や条件とは、適合性が高いと考えられる。このような女性医師を公衆衛生医師としてリクルートすることによって、公衆衛生医師の充足と若手女性医師の就業維持が期待される。

しかし、本調査の結果、今まで公衆衛生医師のキャリアを考えたり今後のキャリアとして考えている医師は依然少ない。そこで、公衆衛

生医師の業務のやり甲斐と共に、積極的にワークライフバランスのとりやすさなどの雇用条件についても、早期から女性医師に対してアピールすることが有効ではないか。

なお、現時点では、入籍時に女性が改姓するケースが多く、この状況はしばらく続くと考えられる。改姓の際、医師は医籍の訂正と免許証書換え申請のために保健所を訪れる必要があるが、このような機会を捉えて公衆衛生医師のキャリアについて紹介することも一つの方法である。

このように、若手女性医師にとって、働きやすい環境であることを公衆衛生医師というキャリアの価値明確化を行った上で、ターゲットとなる医師に対する広報を行っていくことが望まれる。また、現状でも女性公衆衛生医師がワークライフバランスを比較的とりやすいと認識しているとはいえ、このような価値明確化を行うのであれば、女性医師が勤務しやすい環境や条件等を継続的に改善していくことも求められる。また、ワークライフバランスの課題は、必ずしも女性医師に限られたものではなく、男性医師の業務環境・条件等についても併せて改善していくことが重要であると考えられる。

4. 研究の限界

本調査はウェブアンケートを用いた横断調査であり、職業選択における動機と実際の行動との因果関係を明らかにすることはできない。また、ウェブアンケート調査では、一般に選択バイアスが起りやすいが、本調査では特段の補正は行っていない。ただし、今回の調査対象は45歳未満の女性医師であり、ウェブアンケートの障壁は比較的低いことから、ウェブ調査自体のバイアスは限定的だと考えられる。

また、本調査の結果と、本研究班が公衆衛生医師を対象として実施した別の調査結果(渡邊

他, 2019)とを比較して考察を行っているが、公衆衛生医師を対象とした調査は、調査時期やリクルーティング方法、調査票(ウェブフォームのスタイル)、調査内容の種類が異なることから、その比較検討には一定の留意が必要である。

E. 結論

公衆衛生医師の充実と育成に向けた対象の一つとして、女性医師を対象とした公衆衛生医師キャリアの価値創造・広報戦略を検討することを目的として、一般の医療機関等に勤務する45歳未満の女性臨床医を対象としたウェブアンケートを実施した。アンケートでは、仕事に対する価値観や現在の業務環境に関する実態について尋ねた。その結果、臨床医でも勤務先種別によってその回答性向は異なっており、診療所勤務医に比べて病院勤務医では待遇面やワークライフバランスがあまりとりやすくない傾向が示された。また、本研究班が先に実施した公衆衛生医師を対象とした調査と併せて検討したところ、女性公衆衛生医師では比較的ワークライフバランスがとりやすい傾向が示されており、業務に対するやり甲斐も高いこと、仕事内容と対比して給与もそれなりに見合っていることが示唆された。公衆衛生医師の充実を目指して、ワークライフバランスが比較的とりやすくやり甲斐のある業務を行うことができるキャリアとしての価値明確化を図った上で、若手女性医師を積極的な募集対象の一つとして広報を積極的に行うことが期待される。

【参考文献】

- 13) 厚生労働省 (2005) 「公衆衛生医師の育成・確保のための環境整備に関する検討会報告書」『「公衆衛生医師の育

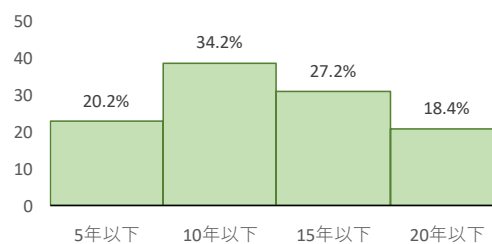
- 成・確保のための環境整備に関する検討会」報告書について』.
(<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2005/01/dl/s0118-4b.pdf>, 2019年3月8日参照).
- 14) 佐藤大介・ほか (2018) 「一般医師を対象とした公衆衛生医師としてのコンピテンシーおよびキャリアの興味関心に関する研究」『公衆衛生医師の確保・育成のためのガイドライン策定と女性医師を含む多様性包括型キャリアパス構築に関する研究 平成29年度分担研究報告書』
- 15) 渡邊亮・ほか (2019) 「ウェブアンケートを用いた公衆衛生医師意識調査を通じた公衆衛生行政医師の人材確保と育成のための研究」『公衆衛生医師の確保・育成のためのガイドライン策定と女性医師を含む多様性包括型キャリアパス構築に関する研究 平成30年度分担研究報告書』
- 16) 大阪商業大学・ほか (2004) 『日本版 General Social Surveys JGSS-2002 基礎集計表・コードブック』
(http://jgss.daishodai.ac.jp/research/codebook/JGSS-2002_Codebook_Published.pdf, 2018年5月12日参照).
- 17) 渡邊亮・ほか (2018) 「公衆衛生行政医師の人材確保と育成のためのインタビュー調査」『公衆衛生医師の確保・育成のためのガイドライン策定と女性医師を含む多様性包括型キャリアパス構築に関する研究 平成29年度分担研究報告書』
- 18) 厚生労働省(2018) 「女性医師キャリア支援モデル普及推進事業の成果と今後の取組について」『平成29年度女性医師キャリア支援モデル普及推進事業に関する評価会議 資料3』
- F. 研究発表**
- 1. 論文発表**
該当無し
- 2. 学会発表**
- ・ Watanabe, R., Yoshimura, K., Yoshida, H (2018) “Exploring key challenges to improve the shortage of public health physicians,” *Japanese Journal of Public Health*, 65 (suppl): 200.
- G. 知的財産権の出願・登録状況**
(予定を含む)
- 1. 特許取得**
該当無し
- 2. 実用新案登録**
該当無し
- 3. その他**
該当無し

	全体				診療所				病院				大学・大学病院				p value
	n	mean	sd		n	mean	sd		n	mean	sd		n	mean	sd		
(動機)雇用が安定しているから	115	3.59	0.09	14	3.64	0.25	64	3.67	0.12	31	3.52	0.18	0.761				
(動機)高収入だから	115	3.17	0.10	14	3.79	0.26	64	3.30	0.12	31	2.68	0.22	0.003				
(動機)昇進の機会が多い	115	2.33	0.09	14	2.64	0.27	64	2.30	0.11	31	2.29	0.16	0.417				
(動機)興味のある仕事だから	115	3.91	0.08	14	3.93	0.22	64	3.86	0.12	31	4.10	0.13	0.467				
(動機)干渉されず、独立した仕事だから	115	3.01	0.10	14	3.57	0.20	64	2.95	0.14	31	2.94	0.21	0.145				
(動機)他の人のためになる仕事だから	115	3.82	0.08	14	4.07	0.22	64	3.78	0.11	31	3.84	0.17	0.545				
(動機)社会にとって有益な仕事だから	115	3.75	0.09	14	3.93	0.20	64	3.73	0.11	31	3.77	0.18	0.777				
(動機)働く時間などを自分で決定できるから	115	2.89	0.12	14	4.14	0.23	64	2.63	0.14	31	2.71	0.24	0.000				
(動機)仕事と家庭生活を両立できるから	115	3.10	0.12	14	3.79	0.33	64	2.88	0.15	31	3.10	0.23	0.042				
(動機)教育・訓練の機会が提供されるから	115	3.16	0.09	14	3.14	0.18	64	2.95	0.12	31	3.58	0.20	0.018				
(現在)雇用が安定している	115	3.61	0.09	14	3.07	0.22	64	3.81	0.11	31	3.39	0.20	0.014				
(現在)高収入である	115	3.11	0.10	14	3.50	0.20	64	3.36	0.12	31	2.35	0.22	0.000				
(現在)昇進の機会が多い	115	2.43	0.08	14	2.64	0.20	64	2.33	0.11	31	2.58	0.17	0.276				
(現在)興味のある仕事だ	115	3.91	0.08	14	4.00	0.21	64	3.86	0.10	31	4.06	0.11	0.458				
(現在)干渉されず、独立した仕事だ	115	3.04	0.11	14	3.71	0.19	64	2.95	0.15	31	2.87	0.21	0.048				
(現在)他の人のためになる仕事だ	115	3.84	0.09	14	3.93	0.22	64	3.89	0.11	31	3.81	0.18	0.884				
(現在)社会にとって有益な仕事だ	115	3.88	0.08	14	4.00	0.18	64	3.94	0.10	31	3.81	0.18	0.723				
(現在)働く時間などを自分で決定できる	115	2.94	0.11	14	3.79	0.26	64	2.83	0.14	31	2.68	0.25	0.013				
(現在)仕事と家庭生活を両立できる	115	3.31	0.11	14	3.93	0.25	64	3.19	0.13	31	3.10	0.23	0.050				
(現在)教育・訓練の機会が提供されている	115	3.30	0.10	14	3.07	0.20	64	3.20	0.12	31	3.68	0.20	0.059				
(現在)学位取得、留学、研究の機会がある	115	2.82	0.11	14	2.36	0.27	64	2.52	0.13	31	3.74	0.17	0.000				
(現在)女性医師が勤務しやすい環境である	115	3.38	0.11	14	3.93	0.25	64	3.20	0.14	31	3.48	0.21	0.078				
(現在)給与は仕事内容に見合っている	115	3.22	0.11	14	3.50	0.17	64	3.38	0.13	31	2.58	0.24	0.002				
(現在)これからも、現在のキャリアを重ねていきたい	115	3.50	0.09	14	3.64	0.17	64	3.47	0.13	31	3.58	0.18	0.768				
今までに公衆衛生医師のキャリアを考えたことがある	115	2.42	0.12	14	2.50	0.31	64	2.45	0.15	31	2.23	0.23	0.662				
今までに公衆衛生医師のキャリアを経験したことがある	115	1.56	0.08	14	1.64	0.32	64	1.58	0.11	31	1.55	0.15	0.950				
将来、公衆衛生医師としてのキャリアを考えている	115	2.29	0.10	14	2.29	0.29	64	2.28	0.13	31	2.26	0.21	0.995				

表 3 勤務先種別 仕事選択の動機と現在の仕事の状況に関する比較

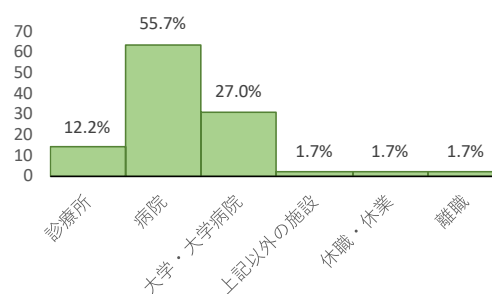
1) 卒後年数

卒後年数	Total	
5年以下	23	20.2%
10年以下	39	34.2%
15年以下	31	27.2%
20年以下	21	18.4%
Total	114	100.0%



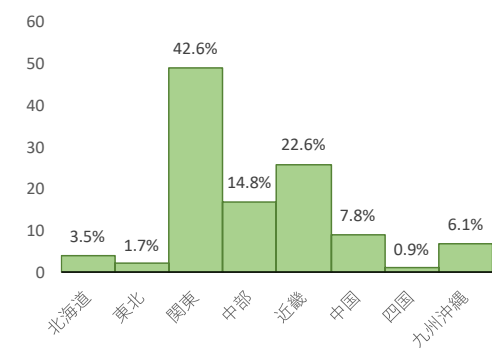
2) 主たる勤務先種別

主たる勤務先種別	Total	
診療所	14	12.2%
病院	64	55.7%
大学・大学病院	31	27.0%
上記以外の施設	2	1.7%
休職・休業	2	1.7%
離職	2	1.7%
Total	115	100.0%



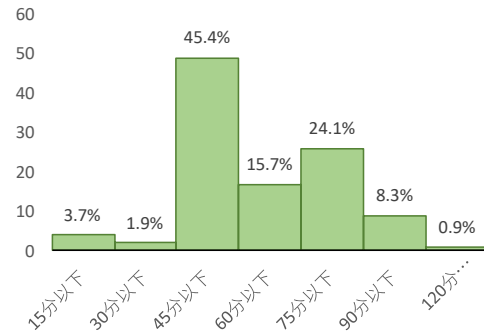
3) 主たる勤務先住所

主たる勤務先住所	Total	
北海道	4	3.5%
東北	2	1.7%
関東	49	42.6%
中部	17	14.8%
近畿	26	22.6%
中国	9	7.8%
四国	1	0.9%
九州沖縄	7	6.1%
Total	115	100.0%



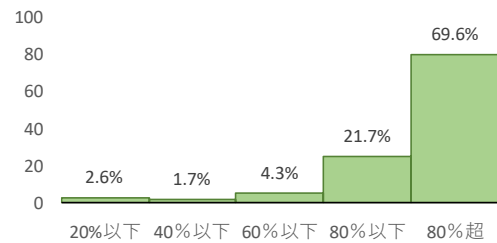
4) 通勤時間

通勤時間	Total	
15分以下	4	3.7%
30分以下	2	1.9%
45分以下	49	45.4%
60分以下	17	15.7%
75分以下	26	24.1%
90分以下	9	8.3%
120分以下	1	0.9%
Total	108	100.0%



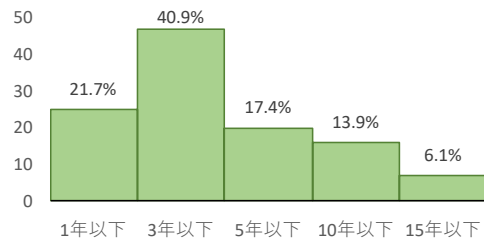
5) 業務における臨床の割合

業務における臨床の割合	Total	
20%以下	3	2.6%
40%以下	2	1.7%
60%以下	5	4.3%
80%以下	25	21.7%
80%超	80	69.6%
Total	115	100.0%



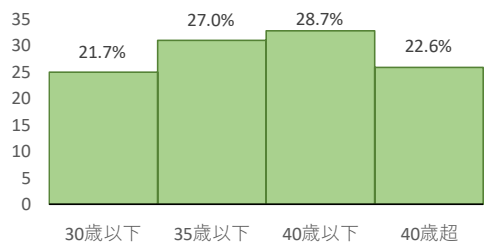
6) 現勤務先の勤続期間

現勤務先の勤続期間	Total	
1年以下	25	21.7%
3年以下	47	40.9%
5年以下	20	17.4%
10年以下	16	13.9%
15年以下	7	6.1%
Total	115	100.0%



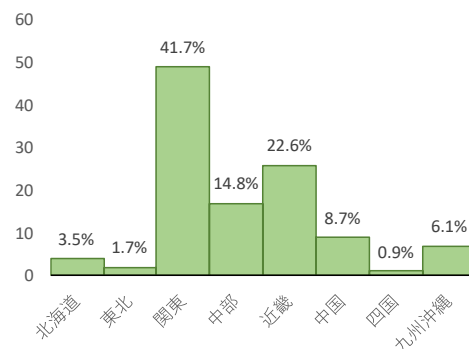
7) 年齢

年齢	Total	
30歳以下	25	21.7%
35歳以下	31	27.0%
40歳以下	33	28.7%
40歳超	26	22.6%
Total	115	100.0%



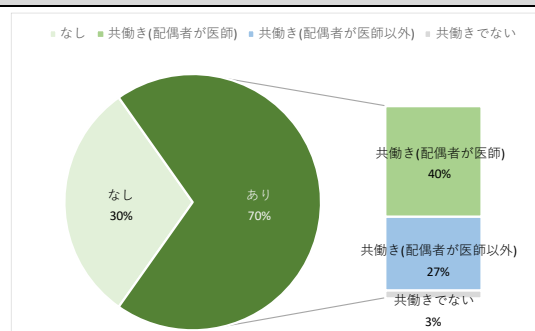
8) 居住地

居住地	Total	
北海道	4	3.5%
東北	2	1.7%
関東	48	41.7%
中部	17	14.8%
近畿	26	22.6%
中国	10	8.7%
四国	1	0.9%
九州沖縄	7	6.1%
Total	115	100.0%



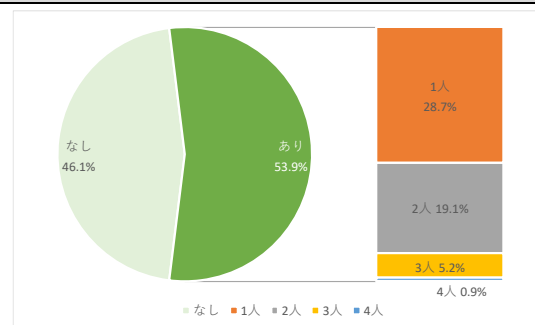
9-1) 配偶者の有無

配偶者の有無	Total	
なし	35	30.4%
あり	80	69.6%
共働き(配偶者が医師)	46	40.0%
共働き(配偶者が医師以外)	31	27.0%
共働きでない	3	2.6%
Total	115	100.0%



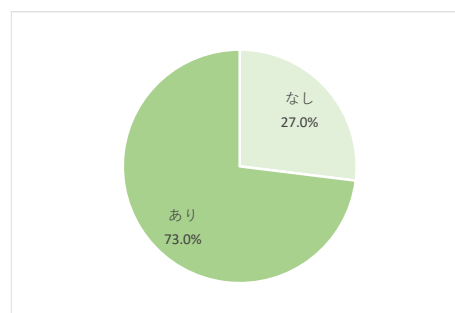
9-2) 子供の有無

子供の有無	Total	
なし	53	46.1%
あり	62	53.9%
1人	33	28.7%
2人	22	19.1%
3人	6	5.2%
4人	1	0.9%
Total	115	100.0%



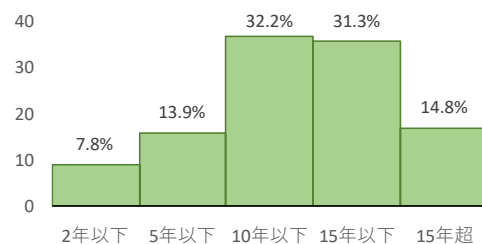
9-3) 家族の同居

家族の同居	Total	
なし	31	27.0%
あり	84	73.0%
Total	115	100.0%



10) 臨床医通算期間

臨床医通算期間	Total	
2年以下	9	7.8%
5年以下	16	13.9%
10年以下	37	32.2%
15年以下	36	31.3%
15年超	17	14.8%
Total	115	100.0%



11) 主たる診療科

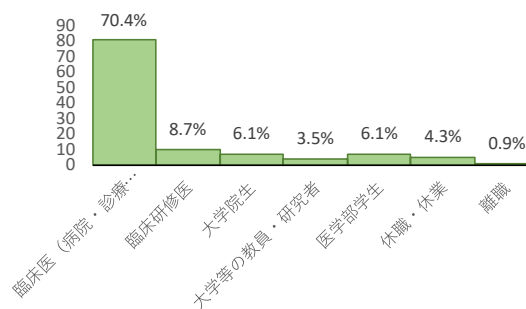
主たる診療科	Total	
小児科	12	10.4%
内科	10	8.7%
麻酔科	10	8.7%
眼科	9	7.8%
皮膚科	8	7.0%
産婦人科	7	6.1%
精神科	6	5.2%
臨床研修医	5	4.3%
呼吸器内科	4	3.5%
循環器内科	4	3.5%
神経内科	4	3.5%
形成外科	4	3.5%
腎臓内科	3	2.6%
糖尿病内科(代謝内科)	3	2.6%
外科	3	2.6%
整形外科	3	2.6%
放射線科	3	2.6%
その他	17	14.8%
Total	115	100.0%

12) 保有する専門医資格

保有する専門医資格	Total	
総合内科専門医	15	10.1%
小児科専門医	10	6.7%
日医認定産業医	9	6.0%
麻酔科標榜医	7	4.7%
皮膚科専門医	6	4.0%
産婦人科専門医	6	4.0%
眼科専門医	6	4.0%
外科専門医	5	3.4%
麻酔科専門医	5	3.4%
精神科専門医	3	2.0%
整形外科専門医	3	2.0%
放射線科専門医	3	2.0%
呼吸器専門医	3	2.0%
血液専門医	3	2.0%
その他	33	22.1%
専門医資格は保有していない	32	21.5%
Total	149	100.0%

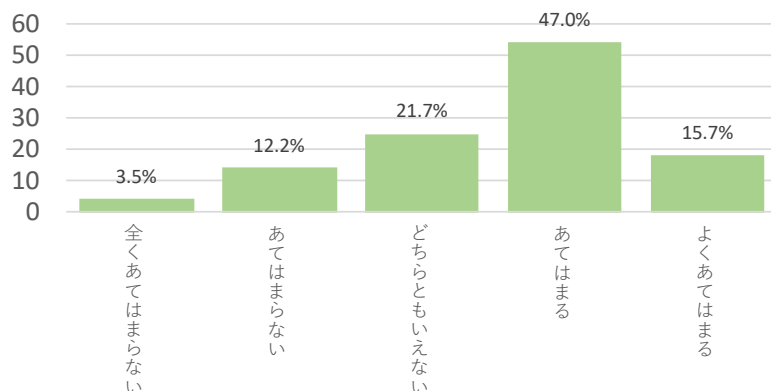
13) 前の主な職

前の主な職	Total	
臨床医（病院・診療所）	81	70.4%
臨床研修医	10	8.7%
大学院生	7	6.1%
大学等の教員・研究者	4	3.5%
医学部学生	7	6.1%
休職・休業	5	4.3%
離職	1	0.9%
Total	115	100.0%



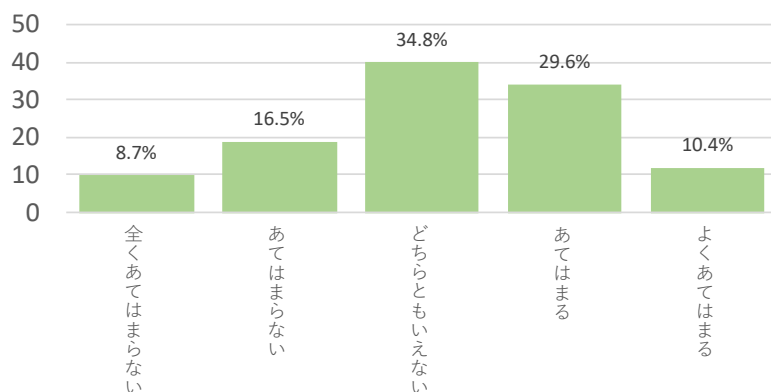
14) 仕事の志望動機として、以下の項目はどの程度当てはまりますか

仕事の志望動機_雇用が安定しているから



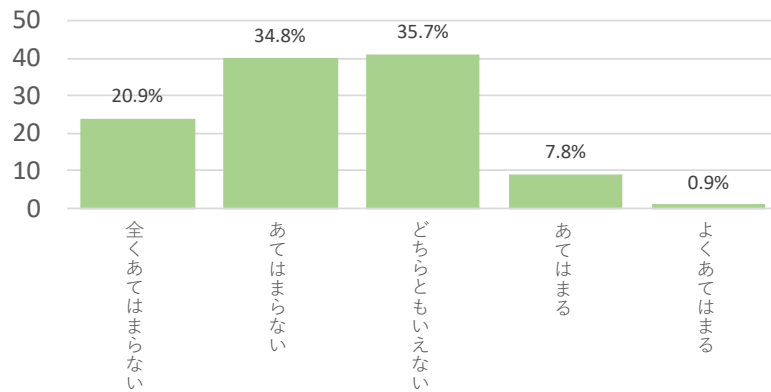
仕事の志望動機_雇用が安定しているから	Total	
全くあてはまらない	4	3.5%
あてはまらない	14	12.2%
どちらともいえない	25	21.7%
あてはまる	54	47.0%
よくあてはまる	18	15.7%
Total	115	100.0%

仕事の志望動機_高収入だから



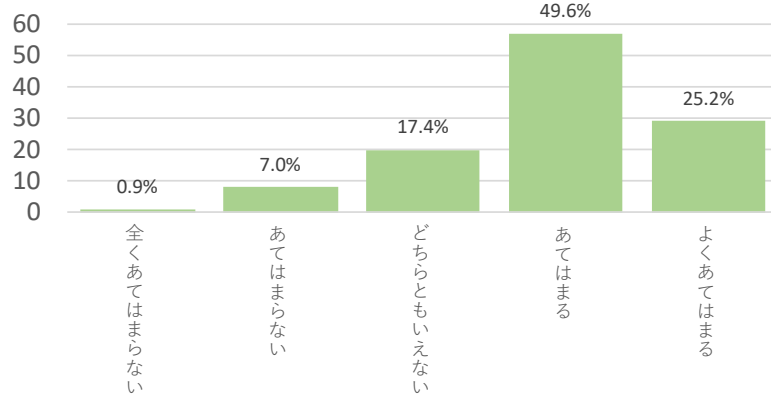
仕事の志望動機_高収入だから	Total	
全くあてはまらない	10	8.7%
あてはまらない	19	16.5%
どちらともいえない	40	34.8%
あてはまる	34	29.6%
よくあてはまる	12	10.4%
Total	115	100.0%

仕事の志望動機_昇進の機会が多い



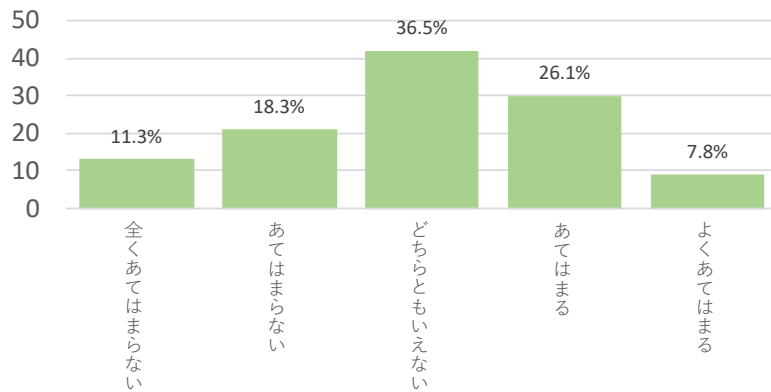
仕事の志望動機_昇進の機会が多い	Total	
全くあてはまらない	24	20.9%
あてはまらない	40	34.8%
どちらともいえない	41	35.7%
あてはまる	9	7.8%
よくあてはまる	1	0.9%
Total	115	100.0%

仕事の志望動機_興味のある仕事だから



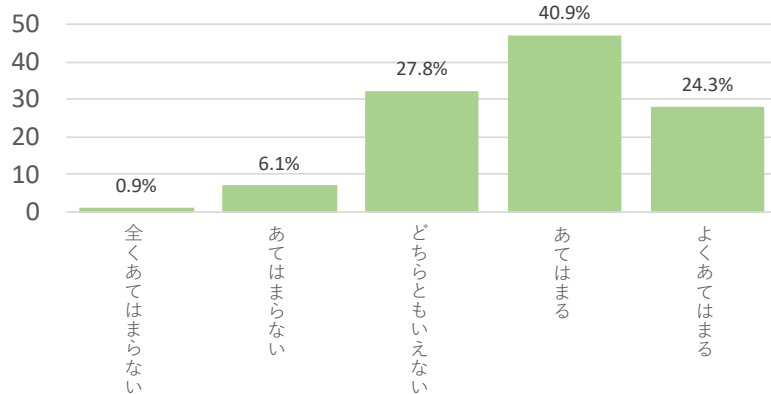
仕事の志望動機_興味のある仕事だから	Total	
全くあてはまらない	1	0.9%
あてはまらない	8	7.0%
どちらともいえない	20	17.4%
あてはまる	57	49.6%
よくあてはまる	29	25.2%
Total	115	100.0%

仕事の志望動機_干渉されず、独立した仕事だから



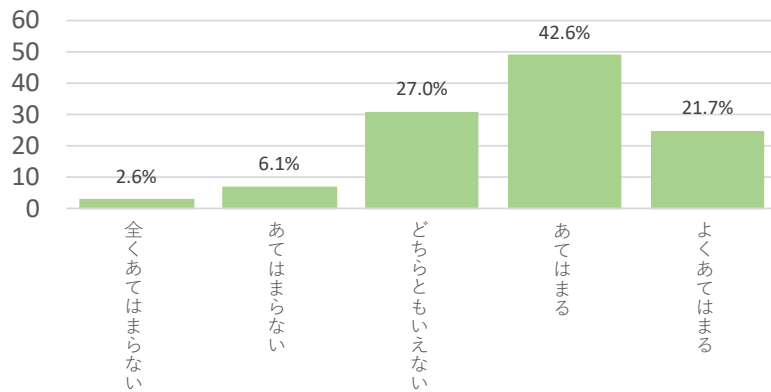
仕事の志望動機_干渉されず、独立した仕事だから	Total	
全くあてはまらない	13	11.3%
あてはまらない	21	18.3%
どちらともいえない	42	36.5%
あてはまる	30	26.1%
よくあてはまる	9	7.8%
Total	115	100.0%

仕事の志望動機_他の人のためになる仕事だから



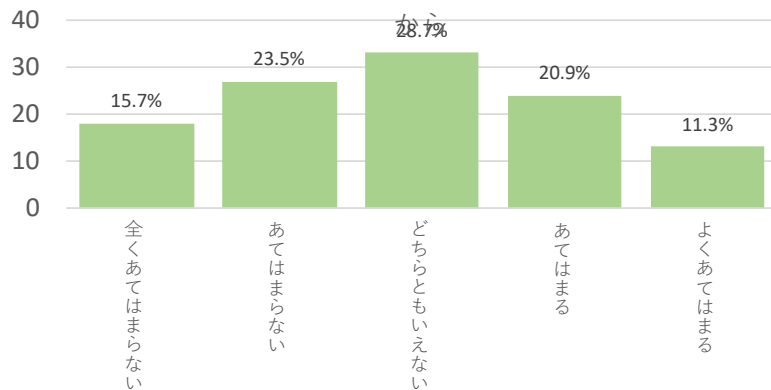
仕事の志望動機_他の人のためになる仕事だから	Total	
全くあてはまらない	1	0.9%
あてはまらない	7	6.1%
どちらともいえない	32	27.8%
あてはまる	47	40.9%
よくあてはまる	28	24.3%
Total	115	100.0%

仕事の志望動機_社会にとって有益な仕事だから



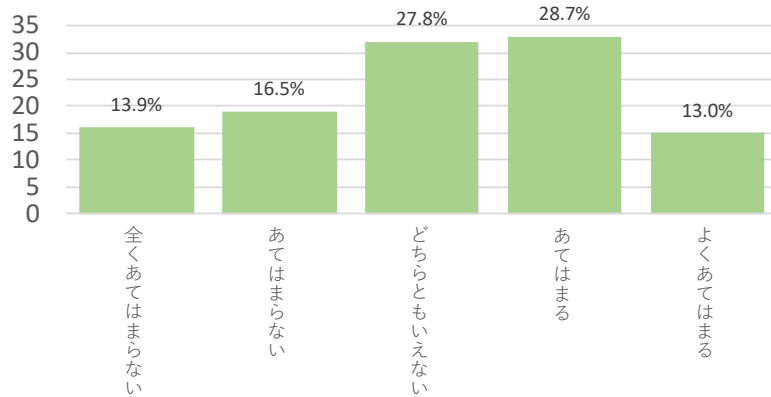
仕事の志望動機_社会にとって有益な仕事だから	Total	
全くあてはまらない	3	2.6%
あてはまらない	7	6.1%
どちらともいえない	31	27.0%
あてはまる	49	42.6%
よくあてはまる	25	21.7%
Total	115	100.0%

仕事の志望動機_働く時間などを自分で決定できる



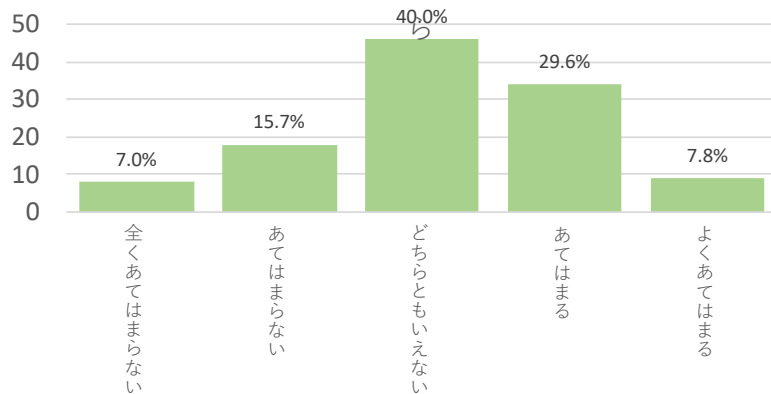
仕事の志望動機_働く時間などを自分で決定できるから	Total	
全くあてはまらない	18	15.7%
あてはまらない	27	23.5%
どちらともいえない	33	28.7%
あてはまる	24	20.9%
よくあてはまる	13	11.3%
Total	115	100.0%

仕事の志望動機_仕事と家庭生活を両立できるから



仕事の志望動機_仕事と家庭生活を両立できるから	Total	
全くあてはまらない	16	13.9%
あてはまらない	19	16.5%
どちらともいえない	32	27.8%
あてはまる	33	28.7%
よくあてはまる	15	13.0%
Total	115	100.0%

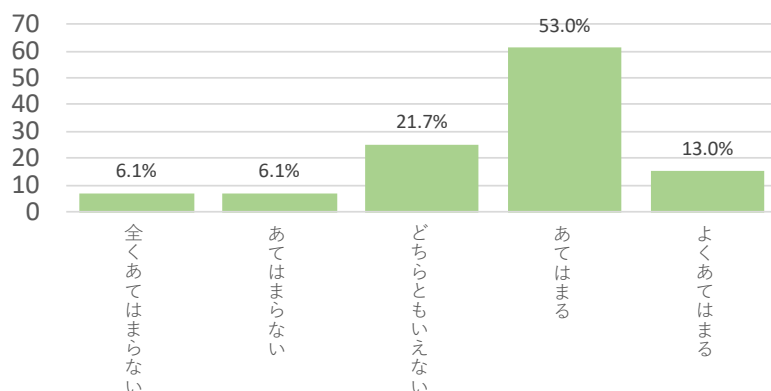
仕事の志望動機_教育・訓練の機会が提供されるか



仕事の志望動機_教育・訓練の機会が提供されるから	Total	
全くあてはまらない	8	7.0%
あてはまらない	18	15.7%
どちらともいえない	46	40.0%
あてはまる	34	29.6%
よくあてはまる	9	7.8%
Total	115	100.0%

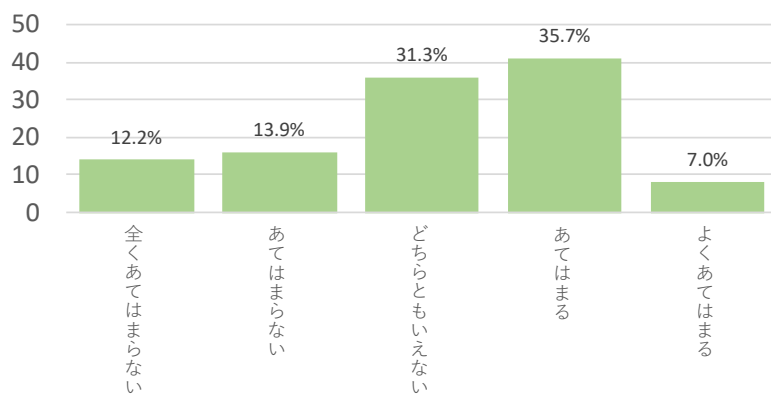
15) あなたの現在の仕事について、以下の項目はどの程度当てはまりますか

現在の仕事_雇用が安定している

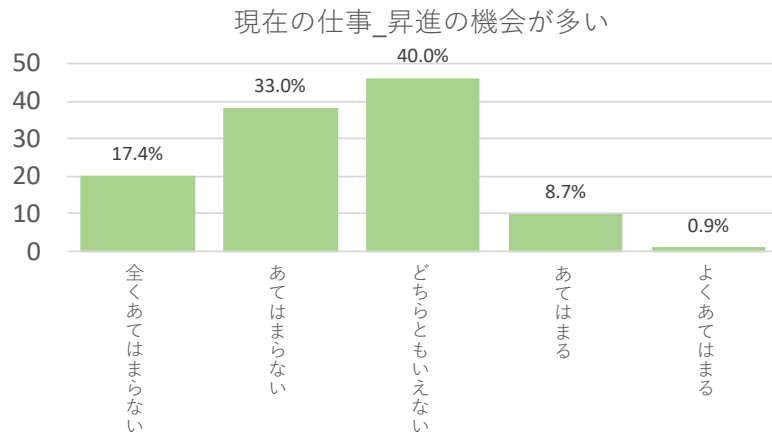


現在の仕事_雇用が安定している	Total	
全くあてはまらない	7	6.1%
あてはまらない	7	6.1%
どちらともいえない	25	21.7%
あてはまる	61	53.0%
よくあてはまる	15	13.0%
Total	115	100.0%

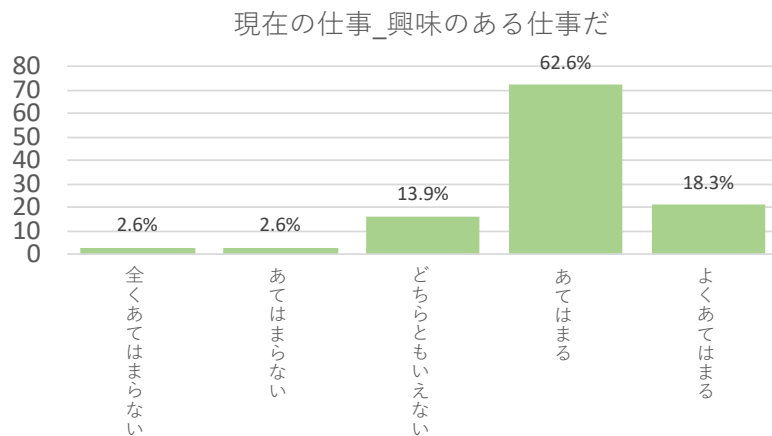
現在の仕事_高収入である



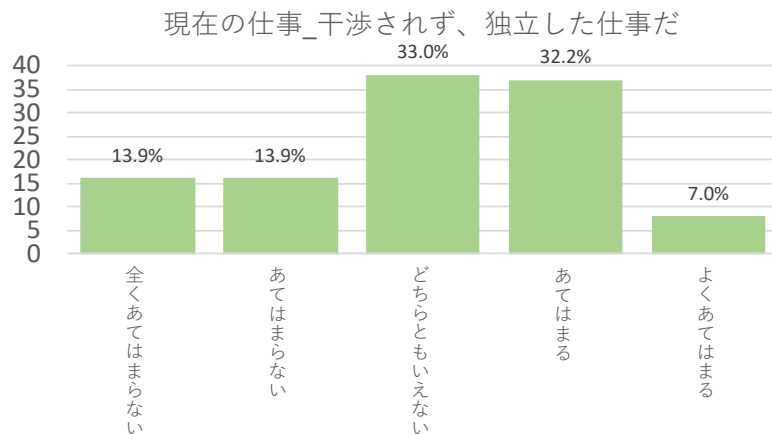
現在の仕事_高収入である	Total	
全くあてはまらない	14	12.2%
あてはまらない	16	13.9%
どちらともいえない	36	31.3%
あてはまる	41	35.7%
よくあてはまる	8	7.0%
Total	115	100.0%



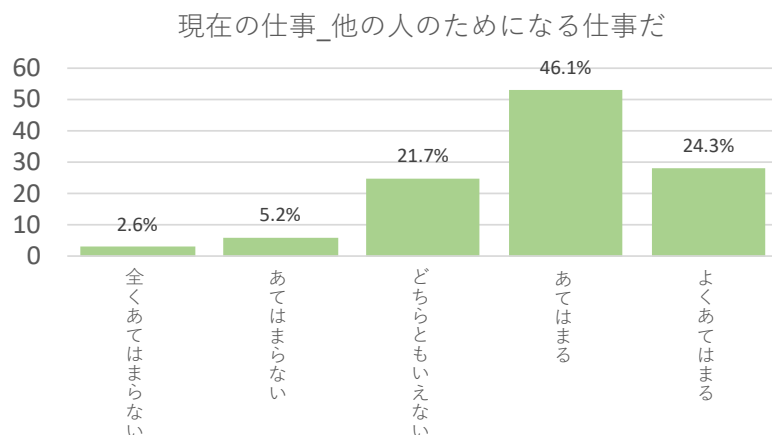
現在の仕事_昇進の機会が多い	Total	
全くあてはまらない	20	17.4%
あてはまらない	38	33.0%
どちらともいえない	46	40.0%
あてはまる	10	8.7%
よくあてはまる	1	0.9%
Total	115	100.0%



現在の仕事_興味のある仕事だ	Total	
全くあてはまらない	3	2.6%
あてはまらない	3	2.6%
どちらともいえない	16	13.9%
あてはまる	72	62.6%
よくあてはまる	21	18.3%
Total	115	100.0%

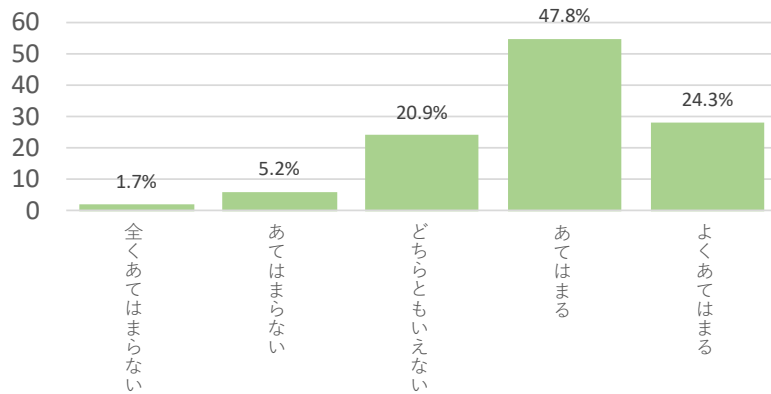


現在の仕事_干渉されず、独立した仕事だ	Total	
全くあてはまらない	16	13.9%
あてはまらない	16	13.9%
どちらともいえない	38	33.0%
あてはまる	37	32.2%
よくあてはまる	8	7.0%
Total	115	100.0%



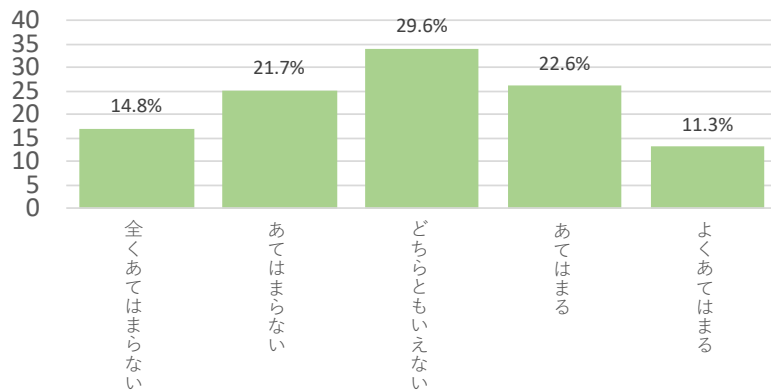
現在の仕事_他の人のためになる仕事だ	Total	
全くあてはまらない	3	2.6%
あてはまらない	6	5.2%
どちらともいえない	25	21.7%
あてはまる	53	46.1%
よくあてはまる	28	24.3%
Total	115	100.0%

現在の仕事_社会にとって有益な仕事だ



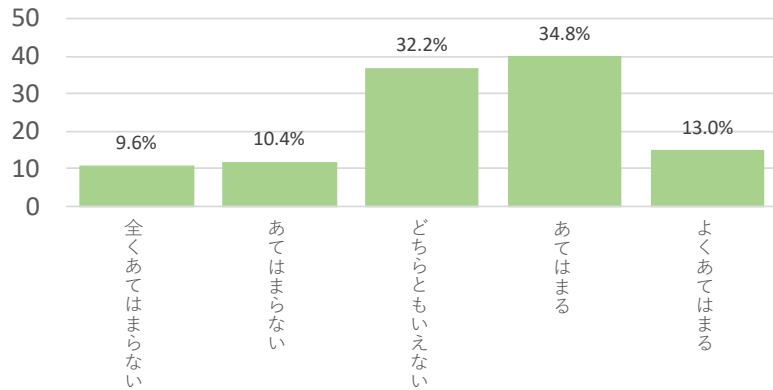
現在の仕事_社会にとって有益な仕事だ	Total	
全くあてはまらない	2	1.7%
あてはまらない	6	5.2%
どちらともいえない	24	20.9%
あてはまる	55	47.8%
よくあてはまる	28	24.3%
Total	115	100.0%

現在の仕事_働く時間などを自分で決定できる



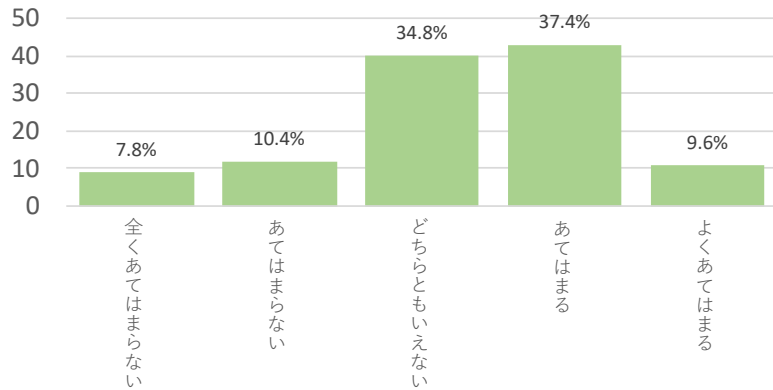
現在の仕事_働く時間などを自分で決定できる	Total	
全くあてはまらない	17	14.8%
あてはまらない	25	21.7%
どちらともいえない	34	29.6%
あてはまる	26	22.6%
よくあてはまる	13	11.3%
Total	115	100.0%

現在の仕事_仕事と家庭生活を両立できる



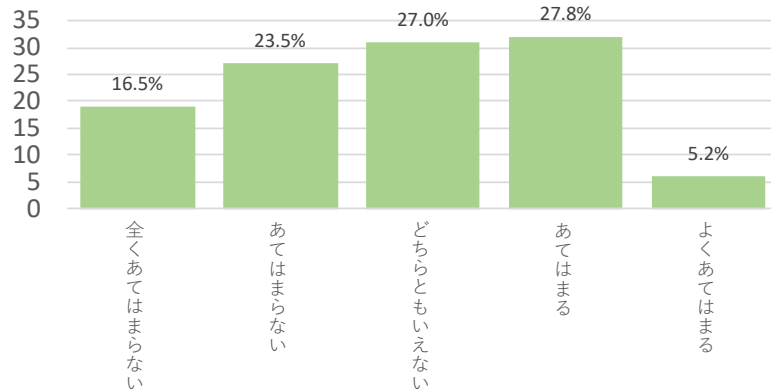
現在の仕事_仕事と家庭生活を両立できる	Total	
全くあてはまらない	11	9.6%
あてはまらない	12	10.4%
どちらともいえない	37	32.2%
あてはまる	40	34.8%
よくあてはまる	15	13.0%
Total	115	100.0%

現在の仕事_教育・訓練の機会が提供されている



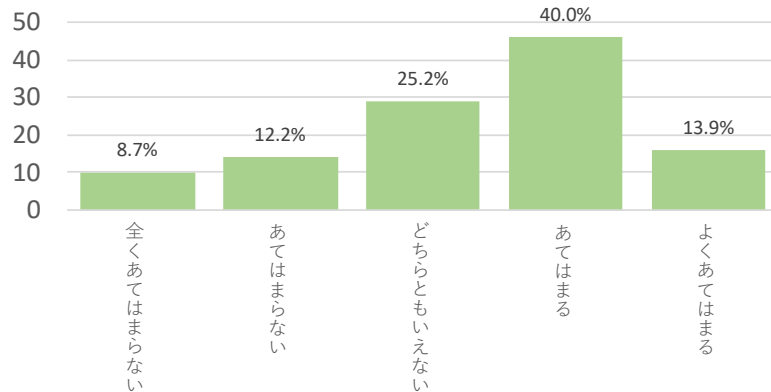
現在の仕事_教育・訓練の機会が提供されている	Total	
全くあてはまらない	9	7.8%
あてはまらない	12	10.4%
どちらともいえない	40	34.8%
あてはまる	43	37.4%
よくあてはまる	11	9.6%
Total	115	100.0%

現在の仕事_学位取得、留学、研究の機会がある



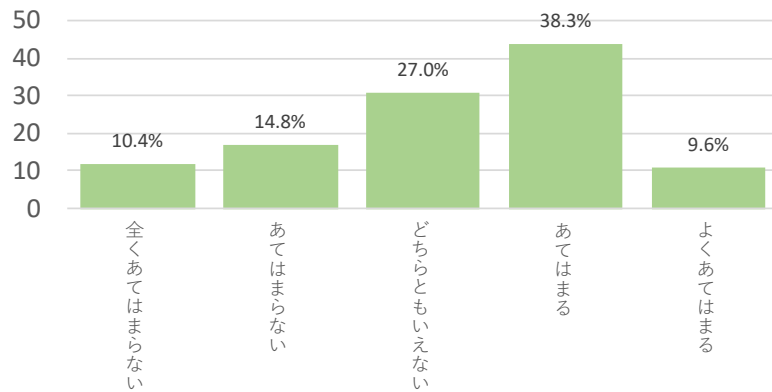
現在の仕事_学位取得、留学、研究の機会がある	Total	
全くあてはまらない	19	16.5%
あてはまらない	27	23.5%
どちらともいえない	31	27.0%
あてはまる	32	27.8%
よくあてはまる	6	5.2%
Total	115	100.0%

現在の仕事_女性医師が勤務しやすい環境である



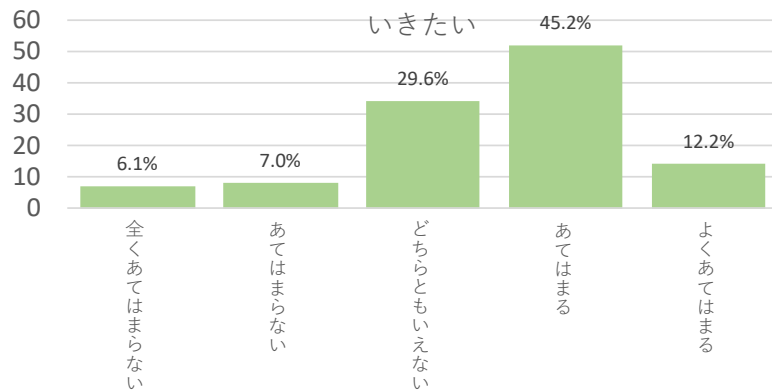
現在の仕事_女性医師が勤務しやすい環境である	Total	
全くあてはまらない	10	8.7%
あてはまらない	14	12.2%
どちらともいえない	29	25.2%
あてはまる	46	40.0%
よくあてはまる	16	13.9%
Total	115	100.0%

現在の仕事_給与は仕事内容に見合っている



現在の仕事_給与は仕事内容に見合っている	Total	
全くあてはまらない	12	10.4%
あてはまらない	17	14.8%
どちらともいえない	31	27.0%
あてはまる	44	38.3%
よくあてはまる	11	9.6%
Total	115	100.0%

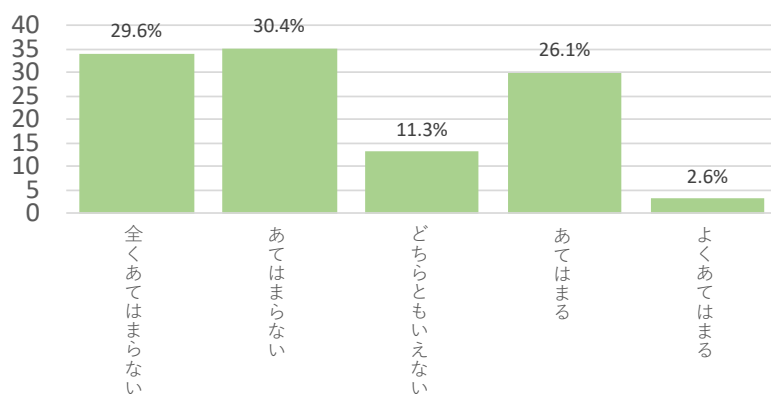
現在の仕事_これからも、現在のキャリアを重ねて



現在の仕事_これからも、現在のキャリアを重ねていきたい	Total	
全くあてはまらない	7	6.1%
あてはまらない	8	7.0%
どちらともいえない	34	29.6%
あてはまる	52	45.2%
よくあてはまる	14	12.2%
Total	115	100.0%

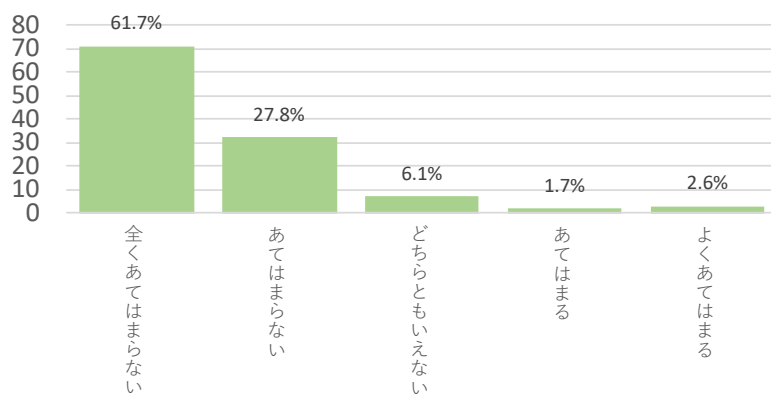
16) 公衆衛生医師のキャリアについて

今までに公衆衛生医師のキャリアを考えたことがある



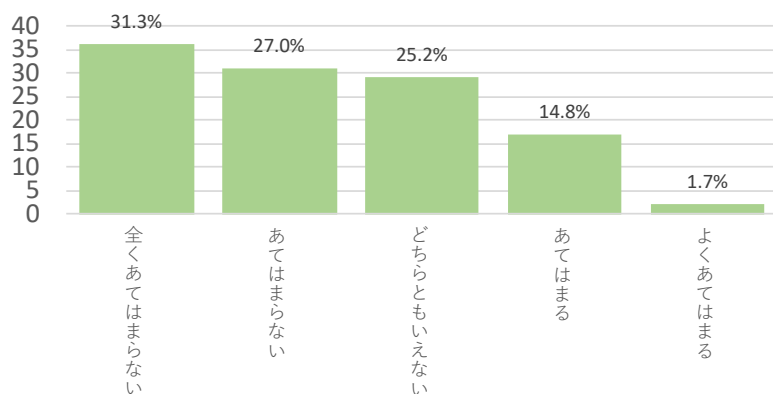
今までに公衆衛生医師のキャリアを考えたことがある	Total	
全くあてはまらない	34	29.6%
あてはまらない	35	30.4%
どちらともいえない	13	11.3%
あてはまる	30	26.1%
よくあてはまる	3	2.6%
Total	115	100.0%

今までに公衆衛生医師のキャリアを経験したことがある



今までに公衆衛生医師のキャリアを経験したことがある	Total	
全くあてはまらない	71	61.7%
あてはまらない	32	27.8%
どちらともいえない	7	6.1%
あてはまる	2	1.7%
よくあてはまる	3	2.6%
Total	115	100.0%

将来、公衆衛生医師としてのキャリアを考えている



将来、公衆衛生医師としてのキャリアを考えている	Total	
全くあてはまらない	36	31.3%
あてはまらない	31	27.0%
どちらともいえない	29	25.2%
あてはまる	17	14.8%
よくあてはまる	2	1.7%
Total	115	100.0%

